

大和市障害者自立支援協議会 第4回定例会 議事録

場 所： 大和市障害者自立支援センター

日 時： 平成21年2月23日 17:00～19:00

出席者： 下記参照

出席者： 定例会委員（敬称略、定例会組織図順）

佐野文彦（あゆみの家）、鳥原信一（大和市身体障害者福祉協会（視覚））、
小沢芳子（大和市手をつなぐ育成会）、星野宗吾（自立支援センター）、目黒裕（松風園）、
関水貴浩（福田の里）、澤田眞理子（大和保健福祉事務所保健予防課）、
菊地原広憲（大和市保健福祉部障害福祉課）、大沢茂子（大和市身体障害者福祉協会（内部））※、
注）※オブザーバー出席者

事務局

佐藤倫孝、三瓶悦子（自立支援センター）、岩渕陽子、五十嵐衛（サポートセンター・花音）、
山田兼右（松風園）、関水覚（福田の里）、
熱田辰雄、笹岡整（大和市保健福祉部障害福祉課）

欠席者： 西原毅（県央療育センター）、成澤一之（ワークステーション・菜の花）
村元良悦（社会福祉協議会）、山岸安志（大和障害者地域生活支援ネットワーク）、
田村桂子（（特非）大和さくら会（精神障がい者家族会））、
木村訓子（神奈川県立瀬谷養護学校 地域支援担当）、阿南由美（大和市教育委員会総務部指導室）、
村尾朗（サポートセンター花音）、高橋隆行（大和市保健福祉部障害福祉課）、
田辺暎夫（大和市身体障害者福祉協会（聴覚））※、
高橋正敏（大和市身体障害者福祉協会（肢体不自由））※、 注）※オブザーバー

内 容： ・会長挨拶（支援センター・星野）

・議 題

1. 相談支援事業所からの報告（事務局より）

(1) 実績報告

資料に基づき説明。

↓ 質疑応答

なし

(2) 相談事例報告（事例を通じた課題提起）

・重症心身障がい児・者に関する地域課題

事例概要

重症心身障がい児の保護者から、市内に医療的ケアを受けられる日中一時支援事業所
や短期入所事業所がなく、ヘルパー数の不足等により、入浴介助等のサービスも非常に

受けにくい状況にあるため、保護者にかかる精神的・肉体的負担が大きいとの相談を受けた。重症心身障がい児・者のニーズは少数であるが、利用できるサービス提供事業所が限定され、ニーズを吸い上げる仕組みも確立されていないため、結果として家族の抱え込みへと繋がってしまっているケースが少なくなく、支援の必要性も高いため、課題として受け止めていく必要があると考え、地域課題として提起した。

↓ 質疑応答

・医療ケアを必要とする人への保健所としての取り組みはあるのか？（委員）

↓

医療機関より、継続看護依頼を受け、福祉制度等に繋げることはある。また、災害時の支援についても大きな課題があり、医療ケアを必要とする方については、受け入れ先を確保することも難しい状況である。医療ケアを必要とする方の支援については、事例を積み重ねていく中で、行政で取り組むこと、家族ができることを整理しながら、検討し、取り組んでいく必要がある。（委員）

・松風園では、重心の方に対する取り組みはどうか？

↓

日中一時支援事業で数名の方を受けているが、看護師の配置が難しく、何とかやり繰りをしながら、要望に応じている状況である。以前、週末の対応について相談を受けたことがあり、その時には、育児休暇中の看護師を紹介し、個人的なやり取りの中で、解決してもらったこともある。但し、看護師の中には、重心の方に対する支援について強い思いを抱いている人もいるため、人員配置等、色々と工夫をしていく中でニーズに応えられるように努力していきたいと考えている。（委員）

↓

松風園には、何名の看護師がいるのか？（委員）

↓

5名（非常勤）がシフトを組んで、常時2名（第1、2松風園で各1名ずつ）配置されている。（委員）

・市内に対象者は何名いるのか？（委員）

↓

障害福祉課として把握している就学前児童数は、6～7名である。（事務局）

2. 各専門部会の活動報告

(1) 児童部会

資料に基づき、活動状況を報告。（事務局より）

↓ 質疑応答等

・リーフレット（教育・福祉相談窓口マップ）配布後の評価はどのように行うのか？（委員）

↓

配布後、どのように評価するかについては、決定していない（事務局）

↓

作成したリーフレットを活かすためにも、アンケートの実施等、どのような効果があったのか等の検証をきちんと行ってもらいたい。（委員）

- ・教育と福祉の垣根を越えて、色々な課題を検討してきた結果として、顔の見える連携の礎を築けたことや成果物としてリーフレットを作成できたことは、大きなことだと思う。（委員）

(2) 就労部会

資料に基づき、活動状況を報告。（事務局より）

↓

- ・就労支援を実施している上で、経済状況の影響は受けているか？

↓

自動車、電器関連企業の裾野は広く、徐々に影響は出てきていることを実感している。例えば、製造工場の人員整理が進み、社員食堂を利用する従業員が減ると、社員食堂業務の委託を受けていた企業での人員整理や社員食堂に食品を納めていた企業での人員整理が進み、勤務時間短縮や解雇へと繋がってしまった方もいる。（事務局）

- ・精神部会としても就労部会との連携の必要性は強く感じているため、就労支援についての検討を協働して行ってもらいたい。（委員）

↓

まずは、障害種別に関わらず、就労支援についての検討を行う場を設けたいと考えている。その中で、協働して検討できる課題や障がい種別により検討した方が効率が良い課題との整理を行っていく中で、方向性を決定していければと考えている。（事務局）

- ・就労部会の調整を通して、就労された方は、何名いるのか？また、求職相談者数は何名か？

↓

（委員）

就労部会の調整を経て就労された方は、3名である。また、求職相談者数は、手元に資料がないため、この場では回答できないが、会議後であれば人数をお伝えすることはできる。

↓

（事務局）

後日で構わないので、求職者数を教えて欲しい。（委員）

※

(3) 精神部会

資料に基づき、活動状況を報告。（事務局より）

↓

質疑応答等

- ・策定委員会に対する意見具申についてであるが、議論を詰め切れていないと感じている委員もいるため、部会内で更に議論を重ね、整理する必要があるのではないか。意見具申とするには、部会内での整理や意思統一が不十分であると感じているがどうか？（委員）

↓

実際に作業所が足りておらず（病院から退院可能な方約 30 名、作業所利用待機者 8 名）、現状の作業所よりももっと緩やかな活動の場・憩いの場が必要との意見は部会内でも検討されていきている。但し、意見具申については、部会内での意見集約の不十分さを指摘する意見も出ているため、数値的な裏づけ等も必要かもしれない。（委員）

↓

コンパスも開設当初は、居場所としての機能も持っていたため、コンパスの機能等を含めて検討をしてもらいたい。（委員）

- ・意見具申については、精神部会として集約された意見ではないのか（委員）
- ・市南部に福祉資源が少ないのは事実であるが、数値的な裏づけもあると理解、納得しやすい。また、地域活動センターのあり方（方向性）についての検討も必要である。（委員）
- ・これまで出された意見を否定的に捉えず、具申をより実現しやすくするための意見として捉えて欲しい。数値的な裏づけがあれば、提言を受けた側も納得し易くなる。（委員）
- ・データ上、福祉資源が南部にないことは事実で、南部に資源は必要なのではないか。（委員）
- ↓
- ・南部での資源の必要性については、認めているが、形まで提言できるほど、議論が詰められていないということである。（委員）
- ・定例会の確認事項としては、①南部に福祉資源がないため、資源の設置についての必要性がある。②どのような資源が必要かについては、議論を詰める必要があるため、精神部会に持ち帰り、再検討を行う。ということで良いか？（事務局）

↓

了承（委員全員）

(4) 身障部会

資料に基づき、活動状況を報告。（事務局より）

↓ 質疑応答等

なし

3. 移動支援・送迎支援に関する実態調査について

資料に基づき、詳細説明。（事務局より）

↓ 質疑応答

- ・自立支援法と介護保険法でのギャップについても知りたい。介護保険の対象となった時に、移動支援を使えなくなってしまったということでは困る。（委員）

- ・アンケート案は他地域でのアンケートを参考にしたのか？（委員）

↓

厚木市で実施された居宅介護実態調査の一部を参考にした。（事務局）

↓

アンケートにより、共通課題と地域課題を浮き彫りにできると良い。（委員）

- ・ガイドヘルパー資格の有無についての質問項目はあるのか？（委員）

↓

ある。（事務局）

4. 来年度の活動に向けて

- ・身障部会設置に伴い、自立支援協議会運営実施要領を変更した。（事務局）

- ・定例会委員の任期が平成 21 年 3 月 31 日までとなっているため、委員の再任をお願いしたい。

（事務局）

↓

了承

↓

手をつなぐ育成会では、役員改選等があるが役員改選に伴い、定例会出席者が変更されても構わないか？（委員）

↓

定例会としては、団体に出席依頼をしているため、定例会出席者をどなたにするかについては、団体内で調整していただければと考えている。（事務局）

5. その他、事務連絡等

- ・補助犬について、周知・広報をお願いしたい。（障福課より）

以 上